

## 伝記類に見られる正誤について

－ F. Scott Fitzgerald 研究余滴（完）－

永 岡 定 夫

On Rights or Wrongs as Seen in the Biographies of F. Scott Fitzgerald

Sadao Nagaoka

この1920年代アメリカ作家に関心を持って以来、40数年の歳月を閲している。この間、参考にし、かつ裨益を得た伝記その他の文献が数多いことは言うまでもない。しかしながら、こうした文献類が参照したはずの原資料にまで遡ってみたところ、偶然か不注意か、誤りが意外に少なくなかったことも事実で、以下はその検証の例を一括したものである。なお既報分をかなり含んでいること、また「研究余滴」と尤もらしく銘打ったシリーズも退職を機に本稿を以て終了とすることを予め断っておきたい。

### I

(1) フィッツジェラルドの両親の結婚式と披露宴の日付について－  
Matthew J. Bruccoli : *Some Sort of Epic Grandeur* (1981) では新婦 Mary (通称 Mollie) の母 Louisa McQuillan 所有のワシントン市の別宅を '1815 N Street' と表示しているが (本文 p.12)、注でその典拠とした *Baltimore Sun* 紙 (ワシントン発特電) によれば '1315 N Street' であり、これは3と8の読み違いか誤植であろう。なお同書の「年表」では日付そのものが '13 February 1890' と誤記されており (12日が正しい)、同教授が編集に係わった *The Romantic Egoists* (1974) や *Correspondence of F. Scott Fitzgerald* (1980) の「年表」も同じ、おそらく最初の誤記がそのまま踏襲されたのであろう。(Classes on F.

伝記類に見られる正誤について

Scott Fitzgerald (2001) で訂正。) Robert L. Gale (ed.) *An F. Scott Fitzgerald Encyclopedia* (1998) では、結婚式が ‘..... in Roman Catholic Church ceremony, in St. Paul’ で行なわれたとなっているが、これには傍証がない。

ちなみに新郎 Edward Fitzgerald の出身が、例えば Andrew Turnbull: *Scott Fitzgerald* (1962) では ‘Glenmary Farm near Rockville’ とやや曖昧に記述されているが、前掲 *Baltimore Sun* 紙の記事は ‘Gaithersburg’ と具体的な地名を挙げています。

(2) 母 Mary の生年と長幼関係 -

St. Paul 市の Calvary Cemetery に現存する McQuillan 家の墓地には、次の石碑がある (Minneapolis 市在住の知人 R. Milton Ertl 氏の撮影協力に拠る)。

PHILIP FRANCIS McQUILLAN (MARCH 11,1834-APRIL 11,1877)

LOUISA ALLEN McQUILLAN (JAN.13,1841-JULY 15,1913)

---

AGNES FRANCES (SEPT.16,1865-OCT.6,1866)

JOSEPHINE (JUNE.30,1871-JULY 27,1872)

JOHN (SEPT.30,1872-FEB'Y 25,1874)

前者はメアリーの父母の、後者は夭折した三児それぞれの墓碑である。

一方メリーランド州 Rockville の St. Mary's Catholic Church にある Fitzgerald 家墓地で確認したところ、メアリーのそれは ‘OUR MOTHER/MARY FITZGERALD/AUG.8,1859/SEPT.2,1936/MAY SHE REST IN PEACE/AMEM’ と墓石に刻まれている。つまり墓碑によれば 1859 年が生年ということになるが、1860 年説を採る資料は意外に多い。McQuillan 家の子女の長幼に関連させつつ、先ず Arthur Mizener は ‘the oldest of the four children’ と考え、A.Turnbull は ‘P.F.(Philip Francis)'s widow raised her five children of whom the eldest-Fitzgerald's mother-was born in 1860 and the youngest in 1877 after the father's death’ と見做している。H.D.Piper によれば ‘his widow and five children....Although his youngest daughter had not inherited Philip McQuillan's good looks, she had his zest and vitality’ であり、やや独善的な Sara Mayfield は ‘Louisa bore him five children, the eldest of whom was Molly McQuillan, Scott's mother’ と断定、Bruccoli の「年表」では ‘1860 Birth of Mary (“Mollie”) McQuillan’、そして R.L.Gale (前出) も 1860 年説である。要するに “P.F.” の

遺児が4人か5人か、メアリーが長女か末娘か、その生年はどちらが正しいかの問題だが、*F.Scott Fitzgerald in Minnesota-His Homes and Haunts*(1978)の著者で郷土史家ともいべき John J.Koblas に直接問い合わせ、当時の同氏の知見をも考慮すると、先ず長幼の順は Mary, Allen(1863?-1940s、未婚)、Agnes, Annabelle (1866?-1963、未婚)、Clara (フィッツジェラルドの月別身辺記録 *Ledger* の記載によれば、1911年10月没、未婚)、Josephine, John, Philip Francis Jr.になろう(この末子のみ妻帯したが、その子の David には子女がなく“P.F.”の直系は絶えている)。

またメアリーの生年については、案ずるに“P.F.”の結婚が1860年、敬虔なカトリック教徒であった夫妻としては、いわば長女の婚前出生を公にしたいくない心理が作用したからかもしれない。それにしても何故、伝記者たちは「墓碑」の存在を無視したのだろうか。

## II

### (3) St. Paul Academy の所在地について－

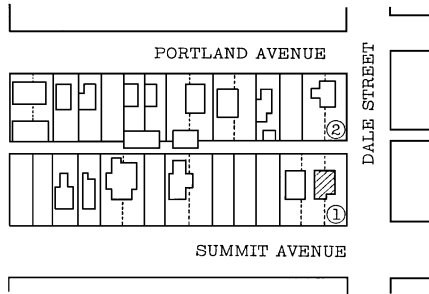
Ehrlich, Eugene and Gorton Carruth(eds.) *The Oxford Illustrated Literary Guide to the United States*(1982)は、いわば文学散歩辞典だが、フィッツジェラルド関係の36項目のうち少なくとも4項目に誤記または誤述がある。その一つ St. Paul, Minn.の項に‘From 1908 to 1911 Fitzgerald attended St. Paul Academy, still at 1712 Randolph Avenue.’とあるが、フィッツジェラルドが在学した当時の同校は所在地が違う。同校(創立は未詳)は1904年にPortland AvenueとDale Streetの角、すなわち25 North Dale St.の‘a new yellow brick building’に移転し(彼が通学したのはここである)、1916年そのupper schoolが1712 Randolph Ave.に分離、あとに残ったjunior schoolも1931年に718 Portland Ave.の新校舎に移った。(旧校舎はその後‘Amherst Wilder Foundation’の施設になったりしたが、1978年6月に出火、かなりの損害をうけたという)。このOxford版辞典の不備については、なお後段で触れたい。

かねて筆者(永岡)は市街図から按じて、上記の25 North Dale St.は母方の祖母ルイザ(前出)の旧居に隣接、いや、むしろ所有地ではなかったという推

測を捨てきれないでいた。手元の資料の一つ、*St. Paul Metro Sun* 紙 (March 27,1974) の記事のメモに、‘McQuillan House on Famous Fitzgerald Corner of Summit and Dale / At right on Dale at Portland, behind his grandmother's house, was S.P.A.’ というキャプション (絵解き) があり、現地の Minnesota Historical Society に照会し直したところ、*Plat Book of St. Paul, Minn.* (1916) からトレースした部分図の提供があった。それによると、別図のように *St. Paul Academy* は正しくルイザがかつて所有していた土地の *Portland Ave.* に面した 2 区画を占めているのではないか。

話は前後する - 1893 年ルイザは *Summit Ave.* と *Dale St.* の西北角の、小路を挟んで 3 区画は *Summit Ave.* に、3 区画は *Portland Ave.* に面した計 6 区画の土地を家屋 (625 *Summit*) 付き \$ 35,000 で購入するかたわら、亡夫が残した邸宅を売却して、いったん 286 *Laurel Ave.* の ‘row house’ に移り、1896 年前記の土地の西寄りの 1 区画半を \$ 6,000 で売却、625 *Summit* の古い家屋を取り壊して新邸を営み、翌 1897 年に移り住んだ (623 *Summit*)。しかし 2 年後の 1899 年には、この新居を \$ 18,000 で売り払い、その後は気楽なホテルや ‘row house’ での暮らし、今でいうマンション住まいを楽しんだという。 - 以上、*Matters, Marion: “Grandmother's House: F. Scott Fitzgerald and the Riddle of the McQuillan Residence” (Grand Gazette, April 19,1976)* の記事ほかに拠る。

別図に即して言えば、①が 623 *Summit*、②が *St. Paul Academy* に相当する。なお、このブロックは計 30 区画で、②の 1 から始まって左回りに①の 30 まで住居表示がある。とすれば、少年期のフィッツジェラルドは幼児のとき (*Ledger* によれば 1899 年 8 月) ただ一度だけ訪れたきりの、しかもすでに祖母の住まない邸宅を瞥見しながら、その所有地に建てられた新営後数年の校舎に通っていたことになる。奇縁、と言えはそれまでだが、この点についてフィッツジェラルド自身、また伝記者の誰ひとりとして語っていないし、なかには “P.F.” が残した下町の邸宅 (249 *East 10th St.* 1881 年 397 と住居表示変更) と混同さえしているものもある)。



(4) ‘F. Scott Fitzgerald Home’ について－

というと、とかく、その生家と誤解されやすいが、彼が生まれたのは 481 Laurel Ave. であって、ここにいう ‘Home’ とは南四筋目に当たる 587-601 Summit Ave. の褐色砂岩造りの三階建てアパート ‘a series of eight attached dwellings’ (通称 Summit Terrace) の西寄り、とりわけ蔦の生い茂った 599 番地のことで、フィッツジェラルドが *This Side of Paradise* を脱稿した当時の住まいとして 1972 年 Minnesota Historical Society に公認されたもの。1976 年、筆者が訪ねたときにはドアにぶらさがった ‘No Tours’ の制札にもかかわらず、幸い 20 年来住んでいるという Miss Ethel D. Cline という老嬢が痛む腰だか脚だかをいたわりながら家の内部を案内してくれた－「ここ(三階南側の窓)から眺める景色は素晴らしい、スコットはここで *The Great Gatsby* の構想を練ったのよ」とまことしやかに説明してくれながら。

彼女の説明が半可通な知識であることは明らかだが、その後老齢のためか、建物自体の老朽化のためか (1889 年建造) 売りに出され、保存か否かの情報を得ていたので 2001 年初頭に Minnesota Historical Society に改めて照会したところ現在の住人・所有者は ‘Michael J. Jones and Nancy D. Jones’ と判明したが、「公認」の件はどうなったかについては言及がなく、釈然としない思いが残った。というのも、先ず 1976 年当時 Society から借り出した新聞記事の中に、棟つづきの 593 番地の 2 階に Miss Alberta Gurtler という、これも老嬢が住んでいて、「よく階段を登り降りするスコットの足音が聞こえたものです」として ‘I want his ghost to feel at home here’ と語っているからである。さらに

伝記類に見られる正誤について

*St. Paul City Directory* の 1918 年・1919 年版によると前者では ‘Fitzgerald Francis S.593 Summit Av.’ 後者では姓名の後に ‘student b.599 Summit Av.’ が添えられている（‘b’ は boards の略）し、少尉任官試験に ‘qualified’ された旨のワシントン軍務局の通知書（1917 年 9 月 6 日付）の宛先は 593 番地になっている。彼の両親が棟つづきの 593 番地から 599 番地に移転した経緯は不詳だが（*Ledger* その他によれば 1914 年 9 月に 593 番地に、1918 年 9 月に 599 番地に転居）、フィッツジェルドゆかりの住居を ‘Home’ として 599 番地だけに限定したのは、そもそも片手落ちではなかったかと思う。

### III

#### （5）新婚旅行について－

前出 Oxford 版文学散歩辞典は Westport, Conn. の項で ‘..... just after their honeymoon in California’ としているが、フィッツジェルド夫妻がハネムーンを過ごしたのはニューヨーク市内の Biltmore Hotel であって、新婚早々の 1920 年春に西部に行った事実はない。

#### （6）転居先の誤記の例について－

*Ledger* の 1921 年 11 月に “Baby baptized(*sic*).Commodore & 626 Goodrich/University Club” の記述があり、ブルッコリーの伝記も本文 (p.161) で ‘In November 1921 the Fitzgeralds rented a Victorian frame house at 626 Goodrich Avenue in the Summit Avenue neighborhood.’ としながら、「年表」では ‘November 1921-June 1922 Fitzgeralds rent house at 646 Goodrich Avenue, St. Paul.’ と誤記されている。(1) の場合と同様、単純なミスタイクであろう。(なお *Ledger* に見える Commodore は同市内 79 Western Ave. の apartment hotel で、University Club は Summit Ave. and Ramsey St. に所在)。

後年の 1931 年秋 Zelda がスイスの Prangins Clinic を退院、帰国を許された折、Oxford 版辞典では Montgomery, Ala. の項でフィッツジェラルド夫妻が ‘a house at 919 Felder Avenue’ を借りたとしているが、言うまでもなく 819 番地の誤記である。

#### （7）このような誤記の類いは探せばまだ出て来よう。しかし明らかな誤

述としては Hollywood, Cal.の項で ‘In April 1940 he and [Sheilah] Graham took apartments at 1403 North Laurel Avenue-his apartment was one floor above hers’ として、フィッツジェラルドが同アパートの1階のシーラの部屋で死亡したとする記述である。シーラはもともと 1443 North Hayworth Avenue のアパート暮らし、一方フィッツジェラルドは 1940年5月の末 Encino, San Fernando Valley の暑気を避けてシーラのアパートから一筋東に当たる 1403 North Laurel Avenue の3階を間借りした。11月の末 Sunset Boulevard のドラッグストアで軽い心臓発作を起こしたのを案じて、シーラが自分の部屋に引き取ったのが事実で、12月21日フィッツジェラルドはそこで急死したのである。

## IV

「スコットはここで *The Great Gatsby* の構想を練ったのよ」という前出 Miss Cline にしても、あるいはフィッツジェラルドの 1941年死亡説に固執する 1443 North Hayworth Ave.の現住者 William S. Early 氏（1976年当時）にしても、その自説の潤色ぶりは、ご愛嬌とも言えよう。しかし潤色しすぎて事実の捏造となると、これは認めがたい。本稿の最後にその例を挙げておく。

1975年10月20日フィッツジェラルド夫妻の遺体がロックヴィルのユニオン共同墓地から St. Mary's Catholic Church（前出）のフィッツジェラルド家墓地に移葬され、翌11月7日、改葬式が営まれたことは周知の通りだが、問題は誰がその場に居合わせて *The Great Gatsby* の一節を読んで手向けたかである。イギリスの詩人で来日し東北大学その他で教鞭をとった James Kirkup（1923～）編のアメリカ旅行記によると、問題の役目をしたのは何と編者自身になっていた記憶がある。Eleanor Lanahan: *Scottie-The Daughter of...*（1995）の回想記では ‘At the ceremony Matthew J. Bruccoli read some of Fitzgerald's writings.’ とあり（p.439）、また当日の模様を伝えた翌8日付の各紙 Washington Star, New York Times, Washington Post Metro, Montgomery County Sentinel 等の記事によるとその日、フィッツジェラルドの祖母（Cecilia Ashton Fitzgerald であろう）の祈祷書を用い、続いて *The Great Gatsby* の一節を朗読したのは教会の主任司祭のはずで、Kirkup 氏の名は出て来ない。とはいえ記憶だけでは心許ないので、

伝記類に見られる正誤について

同氏編集の教科書の多い出版社に問い合わせたところ、上記の旅行記は *America Yesterday and Today* (1977) と判明、しかもすでに絶版の在庫一冊を寄贈してくれたー

.....Scottie told me: “We just wanted to have this little ceremony before the beginning of the winter frosts.” She laid a single red rose on the grave, and I read the following passage from the end of his best book, *The Great Gatsby* :- (pp.31-32)

この文章を信じるべきか否かー因に Walden Pond を訪れるとして、その指示どおりボストンの South Station から鉄道に乗ると Concord, Mass.ではなく地名は同じでも New Hampshire のそれへ向かってしまうのではないか。

(2001年3月)

#### Acknowledgement:

My thanks to Ms Alissa Rosenberg, Reference Librarian, Minnesota Historical Society(who provided me with helpful informations in 1984 and 2001)and Mr. Mitsugu Shishido, Seibido, Inc.(who found and sent me the text of *America Yesterday and Today*.)